

# 公園内で見られる植物

写真は9月13日(土)  
自然観察会で見られた  
植物です



メドハギ (マメ科)

茎を占いの筮 (めどき) に使ったことによる。後には竹で作った筮竹 (ぜいちく) が多くなった。  
「目処萩」とも書く。ハギは秋の七草のひとつとして古くから最も親しまれている。



ナンテンハギ (マメ科)

別名フタバハギ。小葉がメギ科のナンテンに似ていることによる。若芽は食べられる。



クズ (マメ科)

秋の七草の一つ。根からとったデンプンが葛粉。根を乾燥したものを葛根湯に用いる。茎からとった繊維で織った布を葛布という。花は薫り高く甘い匂いがする。



ヌルデ (ウルシ科)

葉にヌルデシロアブラムシが寄生してできた虫コブは五倍子と呼ばれている。タンニンを多く含んでいるので薬用や染料などに利用され、かつてはお歯黒にも用いられた。



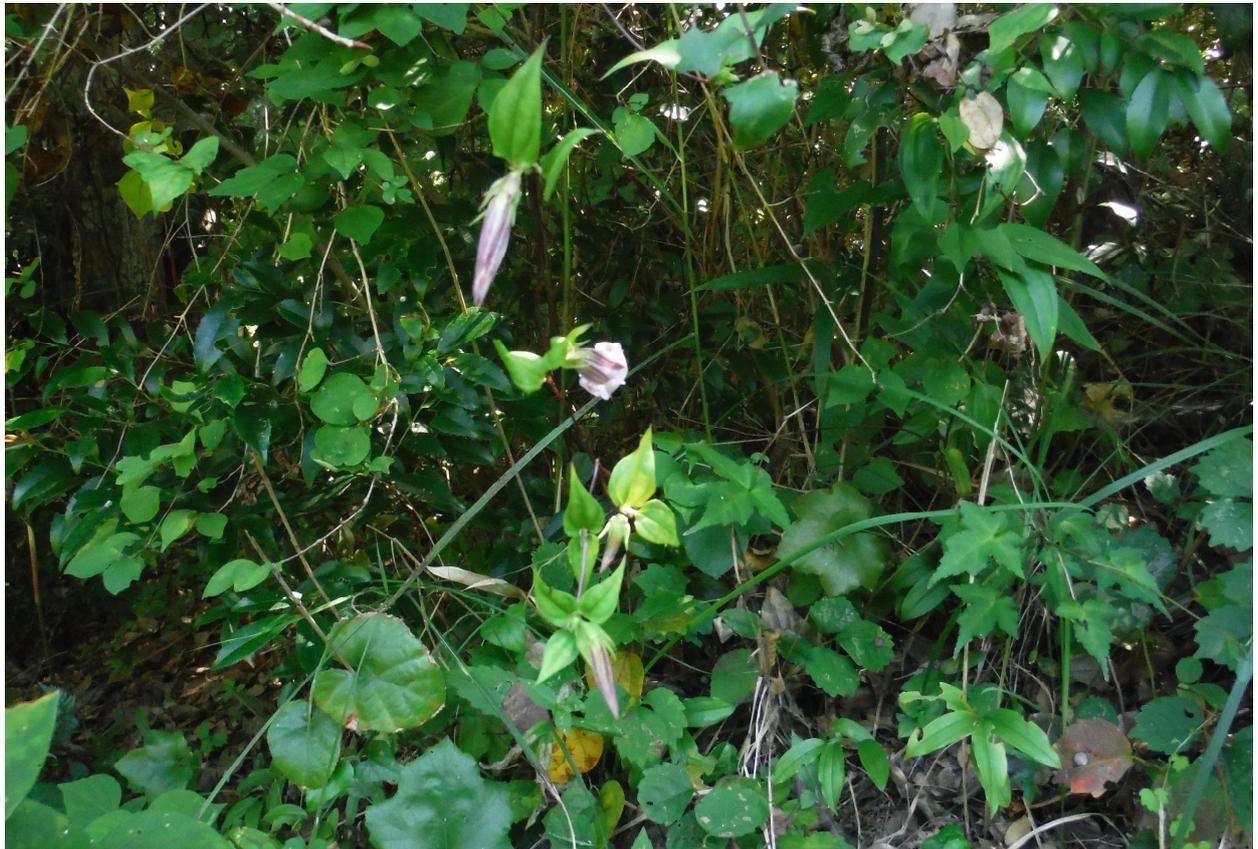
カクレミノ (ウコギ科)

ヒヨドリが好んで食べる。夏から秋にかけて樹皮に傷を付けると、白い汁が出る。これを黄漆といい家具の塗料にした。名前の由来は、切れ込みのない葉と3裂の葉があり、3裂した葉を天狗の隠れ蓑にたとえたことから。



ゴンズイ (ミツバウツギ科)

名前の由来は、材がもろくて役に立たないので、同じように役に立たない魚、ゴンズイの名がつけられたという説がある。花は地味だが、果実は毒々しい色でよく目立つ。



ツルリンドウ (リンドウ科)

長さ 40~80 cmになるツル性の多年草。つるが紫色を帯びる。花も薄紫色でかわいらしい。



ネコノチチ (クロウメモドキ科)

名前の由来は果実を猫の乳首に見立てたことによる。



アオギリ (アオギリ科)

アオギリ科には、チョコレートの原料のカカオノキやコーラ飲料の原料のコラノキが含まれている。熱帯を中心として分布している。名前の由来は、桐に似た葉と樹皮の色から青桐の名が付いた。実は食べられ、炒ってコーヒーの代用にもさせた。